

協働事業計画評価書

事業者名	地区名	対象品目	計画内容	到達目標	現状値 H30	目標値 R5	実績値(t)			達成率 (%)	検証方法	地方農政局等による評価		
							R3	R4	R5					
【主たる拠点事業者】 株式会社大潟村あきたこ まち生産者協会	秋田県南秋田郡大 潟村	水稲(米)	①生産安定・効率化機能 海外向け発芽玄米・加工玄 米の原料の確保に向け、県内 生産者グループとの連携強化 を図るとともに、省力・低コスト 技術(密苗、スマート農業等) の導入に向けた勉強会等を開 催 ②供給調整機能 発芽玄米工場の整備・導入 ③実需者ニーズ対応機能 日本産発芽玄米の市場開拓 に向け、国内外の需要把握や 国内既存納品先への追加提 案するとともに、低価格・安定 供給が可能な輸出体制の構築 に向けた「海外産直プロジェ クト」実証実験の実施	総出荷額に 占める輸出 向け出荷額 の割合を年 平均1ポイン ト以上増加	総出荷額 525 百万円	総出荷額 1,231 百万円	総出荷額 678 百万円	総出荷額 775 百万円	総出荷額 644 百万円	0.0%	令和5年度と現状 値(平成30年度)と の出荷実績の比較 により検証を行う。 算出方法:(実績値 -現状値)÷(目標 値-現状値)×100	成果目標の達成率は0.0%と目標を達成できてい ないことから、改善を要する。 成果目標を達成できなかった要因としては、令和2 年度からの新型コロナウイルスによる影響で海外現 地での商談ができていない期間があったことや、ロ シア・ウクライナ情勢等による原料・資材等の製造 原価、海上運賃の高騰等が挙げられる。 今後は、健康需要のある国をターゲットとした現地 商談会の実施に加え、引き続き「海外産直プロジェ クト」により近隣の秋田港からの輸出を実施・検討す ることで、輸送コスト低減ひいては海外現地販売価 格低減を目指す等、輸出拡大に向けた取組を進め るとのことである。 改善に向けた取組が着実に進捗するよう、成果目 標の達成に向けては事業実施主体への改善指導 が必要である。 なお、協働事業計画において、拠点事業者が具備 すべき三つの機能の全てについて強化を図ること されているところ、取組状況は以下のとおり。 ①生産安定・効率化機能 省力・低コスト技術(密苗、スマート農業等)の実証 を行い、その栽培状況を農家グループに共有した。 栽培状況を共有することによって、連携強化(複数 年契約の拡大)を見込んでいたが、生産者としては より高く買ってくれる先に売りたいとの気持ちも強く、 想定していたような連携強化は進んでいないため、 引き続き連携強化に向けた協議を実施する。 ②供給調整機能 発芽玄米工場を整備したことにより、国内・国外需 要に応えられるだけの設備を確保できたものの、新 型コロナウイルス感染拡大に伴う想定外の需要減 少や、ロシア・ウクライナ情勢による資材費や運賃 等の物価高騰により、当初想定していた程の稼働は できていない。 ③実需者ニーズ対応機能 国内既存納品先に対しては、早炊き玄米の追加 提案等を行ったほか、海外向けにも市場状況のヒア リングに加え、加工玄米を展示会で紹介する等の販 路拡大を行った。また、「海外産直プロジェクト」も実 施し、令和5年度実績では、秋田港経由の輸出に よって東京港経由からの輸出と比較し20ftコンテナ1 基あたり約半額での輸出ができた。		
【その他の拠点事業者】 ①菅沼博明 ②国分グループ本社株式 会社 ③佐川急便株式会社	①秋田県南秋田郡 大潟村 ②東京都中央区 ③京都府京都市				輸出向け 出荷額 1.3 百万円 (割合) 0.2%	輸出向け 出荷額 75 百万円 (割合) 6.1%	輸出向け 出荷額 2.0 百万円 (割合) 0.3%	輸出向け 出荷額 1.8 百万円 (割合) 0.2%	輸出向け 出荷額 1.3 百万円 (割合) 0.2%				(5.9ポイント 増加)	(0.0ポイント 増加)
【連携者】 ジェトロ秋田	秋田県秋田市													

事業評価書

拠点事業者: 株式会社大湊村あきたこまち生産者協会

事業	成果目標の達成率※	総合所見
令和2年度 産地生産基盤パワーアップ事業 (整備事業)	50.6%	<p>市場の需要に応じて、発芽玄米の増産に必要な機械を整備したものの、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う食生活の変化により、当初想定よりも需要が低迷してしまい、ひいては契約栽培を拡大できるだけの需要を確保することができなかったことから、成果目標の達成には至らなかった。</p> <p>このため、改善計画書の提出を求め、成果目標の達成に向け、必要な指導を行うこととする。</p> <p>【成果目標】小売店や個人消費者等への直接販売又は中食・外食用向けの原料用等米の契約栽培の割合を20ポイント以上増加(目標:88.2%、24.5ポイント増加) 現状(H30)63.7% → 実績(R5)76.1%(12.4ポイント増加)</p>
	0.0%	<p>輸出拡大を見込んで、発芽玄米の増産に必要な機械を整備したものの、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い海外現地での商談ができていない期間があったことや、ロシア・ウクライナ情勢等による原料・資材等の製造原価、海上運賃の高騰等により、成果目標の達成には至らなかった。</p> <p>このため、改善計画書の提出を求め、成果目標の達成に向け、必要な指導を行うこととする。</p> <p>【成果目標】総出荷額に占める輸出向け出荷額の割合が3%以上で、かつ、輸出向け出荷額を20%以上増加(目標5,669.2%増加) 現状(H30)0.2% → 実績(R5)0.2%(0.0%増加)</p>

※小数点第1位まで記載する